

# やはたの里

— 里山の自然 八幡 —

YAHATANOSATO nature trail guide



八幡町野串



ごみは必ず持ち帰りましょう

## ホタル舞う八幡町本庄



八幡町本庄公会堂付近の八幡川で見られます。  
ゲンジボタル→ヘイケボタル→ヒメボタルと時期によって3種類のホタルが見られます。多いときにはおよそ2000匹ものホタルが鑑賞でき、県内有数のホタル生息地です。例年ゲンジボタルは6月上旬から、ヒメボタルは6月下旬にかけて鑑賞できます。



### ◆ 交通 ◆ 御調八幡宮へのアクセス

- ◇ 山陽自動車道 三原久井 IC ~ 約10分
- ◇ 三原駅から 八幡本庄行バス乗車 約30分 八幡神社前下車

- バス時刻の問い合わせ先 ●  
うきしろロビー  
(JR三原駅構内)  
電話: 0848-67-5877

- 協力 河原 幸造(歴史探訪会 会長)、松浦 美里
- 発行 三原市生活環境部 生活環境課  
〒723-8601 三原市港町3丁目5番1号  
電話 0848-67-6194  
Fax 0848-67-6164



再生紙を使用しています  
2014.3.10000

かがりけいこく

## ◆ 篝溪谷 ◆

八幡町垣内の交差点を東(486号線を御調町方面)へ1.3km、406号線を北上1kmほどいったところにあります。篝溪谷から200m下ったところに、甌穴(8つ)があります。甌穴は螺旋回流によって作られたと言われています。



## ◆ どんどの滝 ◆

八幡町垣内の交差点を東(486号線を御調町方面)へ500mほどいったところにあります。滝に至る道端に本田石材の創業者・本田一郎氏による“視て御覧 あのスばらしい岸壁に どんどんと鳴る どんどの滝”の石碑が建立されています。



石碑



## ■ 八幡のおこり

八幡町は、縄文時代後期から弥生時代・古墳時代に集落が起き、奈良時代末期に御調八幡宮の社領(八幡荘11ヶ村)の村となりました。

明治22(1889)年、八幡荘の本庄、篝、垣内、野串、屋中、美生、宮内の7ヶ村が合併して御調郡八幡村となり、大字を編成し役場を宮内におきました。

昭和28(1953)年、御調郡八幡村が三原市に編入して現在の八幡町となりました。

## ◆ 御調八幡宮 ◆



備後国総鎮護御調八幡宮は、神護景雲3(769)年、臣下の身で帝位を望んだ道鏡の野心を、宇佐八幡の神託を得て退けた和氣清麻呂公が直諫の罪により大隅国へ流されたとき、姉法均尼(和氣広虫姫)は備後国に配流されこの地に流謫の身を留め、齋戒沐浴、円鏡を御神体として、宇佐八幡大神を勧請して清麻呂の雪冤を祈願したことを創祀とするといわれています。

宝龜8(777)年、参議藤原百川が社殿を造営し封戸を割いて社領に当てたといわれ、また保元3(1158)年の官宣旨により石清水八幡宮の別宮となり、八幡荘の鎮守神として、また備後総鎮護の神社として崇信され、往時は随分栄えた神社です。

天正年間には、豊臣秀吉が三原城に滞在中参拝し、境内に桜樹を手植えしたと伝えられ、国の重要文化財、木造狛犬及び古版木、阿弥陀経等が多く保存されています。

出典 (一社)三原観光協会 【佛通寺・御調八幡宮】

## ◆ 御調八幡宮社叢 ◆ (県指定天然記念物)



コジイ(別名ツブラジイ)は常緑広葉樹で、暖帯の代表的樹種です。古代に三原付近に広く優占種として繁茂していましたが、ほとんどが伐採され、現在は社叢の他に北部山地に幼木を散見するにすぎません。社叢内に大木が遺存していることは、過去の植生を知るうえで貴重です。県内に残された数少ないシイ天然林の代表的なものです。

## 魅力いっぱい八幡の里山

～ 御調八幡宮 ～



### 《距離表》

1	↔	2	↔	3	↔	4	↔	5	↔	6	↔	7
		63m		138m		128m		55m		259m		82m

### 『自然保護憲章』

- 自然をどうとび、自然を愛し、自然に親しもう
- 自然に学び、自然の調和をそこなないようにしよう
- 美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう

春



ウメ

シヤガ

タンポポ



サルトリイバラの葉

山ツツジ

ドウダンツツジ

秋



サザンカ

ツバキ

ヤツデ



カリン

モミヂ

イチヨウ

## 桜花祭



桜花祭での「花おどり」は、広島県の無形民族文化財に指定されています。

### ■ 御調八幡宮まつりカレンダー ■

- 4月【第2日曜日】 春季例祭(桜花祭)
- 7月【最終土曜日】 八幡の火祭り
- 11月【第2日曜日】 秋季例祭(鎮座祭)